



私たち生活支援コーディネーターがおじゃました活動や、地域の様子、集いの場に対しての働きかけなどを一部紹介します！

4月

週に1回、本郷地区に逢隈ふれあいセンターの移動販売がやってきます。

移動販売の車が来るまで、集まった方々で井戸端会議。買い物のあとは、お宅に上がって



続きのお話をお茶のみしながらされているとのことでした。

5月

3年ぶりに再開した駅前東区のサロン。

同じ地区で生活していながらも、この3年間顔を合わせる機会はほとんどなかったと振り返りながら、それを取り戻すかのように会話が盛り



り上がっていました。

男性も厨房でお手伝いされていました！

6月

浜吉田にある教会でのサロン。

今回は窓際につるして飾る「サンキャッチャーづくり」をされていました。

色画用紙とおはな紙など、好きな色や形を選



んで、自分好みの作品を作製されていました。

7月

町内で集いの場を運営する担い手のみなさんの研修会を実施しました。

新型コロナが5類に移行し、休会していた集いの場の再開が加速しています。



研修会での意見交換や情報の共有を通して、団体の横のつながりが見受けられました。

会話することや地域での交流の大切さが見直され、新型コロナウイルスが5類の取り扱いになったことをきっかけに、地域の集いの場が徐々に再開しています。

新たな活動の動きも生まれ、地域のみなさんが集える場の拡充をこれからもサポートしていきたいと思えます。

令和4年度 生活支援体制整備事業「協議体」のまとめ

『協議体』とは？

地域住民やまちづくり協議会、老人クラブ、生協などの関係団体、行政などで構成され、住みやすいまちづくりの実現に向けて、「あったらいい支え合いの仕組みは何か」や「どうしたら、もっと住みよくなるか」、「どうやって実現していこうか」といったことを話し合う場です。

令和4年度は生活支援体制整備事業の推進に係る事務局である宮城県社会福祉協議会、アドバイザーとして社会福祉士会の真壁さんのサポートのもと協議を進めました。

【第1回】 令和4年8月9日（火） 亘理町役場 いきいきホール

◆生活支援体制整備事業の概要について

町の現状と亘理町版の「地域包括ケアシステム」のイメージ図を使ってさらに理解を深めました。

生活支援コーディネーターからは、訪問を通して把握したコロナ禍の地域の状況や集いの場の様子を報告し、今後も年3回行う協議体で共有しながら、身近な課題に対しても検討していくことになりました。

◆事例検討を通じた地域力の把握について

事例から見える疑問や質問、今後予測される心配な点、自分が所属する組織としてどんな支援ができるかなど、グループワークを通して検討しました。

【第2回】 令和4年12月13日（火） 亘理町役場 いきいきホール

◆生活支援コーディネーターからの活動報告

地域の「集いの場」の活動状況について報告し共有しました。

また、町内各所で行われている移動販売を地図にまとめたものを作成していることも報告しました。

◆事例検討～事例で考えるつながりの持ち方～

事例から見える対象者の心情を想像し、どんな気持ちなのか考え、現在のつながりと、これからの様なつながりがあるといいのかを検討しました。

【第3回】 令和5年3月13日（月） 亘理町役場 2階大会議室

◆令和4年度の振り返り・地域の支え合い発表会

令和4年度の協議体を振り返り、事例検討から気にかけてあえる関係性づくりと地域全体で支え合う「つながり」づくりの重要性について理解を深めたことが共有されました。

支え合いやおせっかいについて、身近なエピソードが紹介され、自分たちの地域でも見聞きした、また行っている行動について共有しました。

◆次年度の生活支援体制整備事業について

協議体は年3回の開催を予定。集いの場情報や移動販売マップなど各種情報の更新のほか、新たに生活支援コーディネーターとして発行するお便りや SNS での発信にも力を入れていくことについて説明しました。